様式4

学 校 番 号 67

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立大川樟風高等学校　全日制

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	地域全体を学びの場とした教育活動をとおして「人や地域とつながり、未来を自ら創造できる力」を育成し、「志学　創造　貢献」の校訓のもと、何事にも全力で取り組み、地域を支える有能な人材を育成し、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを目指す		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
[成果] ・全校一致団結のもと創立20周年記念事業を実施して、本校の伝統や文化について改めて認識するとともに新たなスタートを切ることができた。 ・大川市内の小学校、中学校、大学との校種間連携に取組んだ。特に県内初となる連携型中・高一貫教育について県教育委員会からの正式発表と令和5年度からの本格実施に向けた基礎を築くことができた。 ・新型コロナウイルス感染防止の対策を取りながら予定した行事を実施した。また、多様な進路の実現や部活動、資格取得等において素晴らしい成果をあげた。 [課題] ・地域との連携を強化して、校種間連携及び連携型中・高一貫教育の発展を目指すとともに地元からの志願者を増やす。 ・魅力ある学校づくりとして、普通科、住環境システム科を充実させ特色ある学科、コースづくりを行う。また、部活動やボランティア活動の充実を図る。 ・定期考査を3回に変更して新教育課程と3観点による評価「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」に取組む。 ・全生徒の学習時間を設定して、積極的に学習支援アプリを活用しながら確かな学力の定着向上を目指す。 ・キャリアパスポートを活用した系統的なキャリア教育の充実と進路について最新の情報提供を行う。	1　魅力ある学校づくりと校種間連携の推進	○各学科・コースの特色ある活動の実施　○連携型中・高一貫教育の発展と校種間連携の推進 ○生徒会を中心とした学校行事や部活動の活性化　○ボランティアとして地域行事や活動への積極的な参加	
	2　安全で安心な教育活動をとおした自分磨き	○いじめや差別のない環境づくりと人権教育の徹底　○安全安心に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 ○「立ち止まり一礼」運動による礼節指導の徹底　○社会人としてのマナーの育成と規範意識の醸成 ○資格取得と検定の合格率向上	
	3　ICT教育の推進	○新学習指導要領における一人一台端末の有効活用　○確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫・改善 ○ICT機器を活用した授業実践に対するスキルアップ　○学習支援アプリの活用法の定着	
	4　キャリア教育の更なる充実	○全生徒のが基礎学力定着向上に向けた学習支援アプリの積極的活用　○段階を追ったキャリア教育の推進（キャリアパスポート） ○進路の手引きを活用した積極的な進路指導　○職場体験活動（実習）やインターンシップの充実	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	ICTの積極的な利用を図りつつ主体的・対話的で深い学びを推進し、授業改善や、基礎学力の定着と発展的な学習につながる知識の理解、技能の習得を目指す。	電子黒板、クロームブックを効率的に活用して、生徒の主体性を喚起し、協働学習の活性化や深い学びへと繋げる。				
		スタディサプリの活用の仕方について、キャリア教育課と連携しつつ授業の充実に努める。				
		各科・コースに応じた専門性の高い指導を行い、進路実現やに向けた基礎学力を養成する。				
	授業規律の徹底を図りつつ、主体的な学びを心掛け、きめ細かな指導を心掛けることで全生徒の履修と修得を目指す。	教室整理や授業開始時の着席指導を徹底する。				
		遅刻・欠席が多い生徒に対しては、学年・生徒指導課と連携し、対象生徒及びその保護者にきめ細かい指導を行う。				
		成績不振者への事後指導と共に、考査前の事前指導についても学年教務を中心に強化する。				
	新教育課程と進路実現の結びつきのある授業計画・実施・検討と、観点別評価の効果的な運用の検討を行う。	観点別評価を充実させ、生徒個々の目的の明確化や教員の指導力向上へと繋げる。				
		各科・コースに応じた観点別評価にあわせて、年間授業指導計画・教務規定を改定する。				
	教務関連書類の内容や様式、手続き等について見直しを行い、効率的な教育環境と業務のスリム化の実現を目指す。	出席統計などの統合型校務支援システムの円滑な運用に努める。				
		教務関連の業務を分担、見直し業務のスリム化を目指す。				
企画調整	他分掌との連携	他分掌と連携して、学校行事における企画補助を行う。具体的には、図面作成や掲示物等の作成・管理を行う。				
	行事予定作成のための的確な情報収集	教務課・生徒指導課・キャリア教育課をはじめ、各部署と連携し、正確な日程・情報を収集し、月ごとの行事・授業予定表を、余裕をもって配布する。また、各学期における式典の企画の中で各学年との調整を行う。				
	PTAとの連携	PTAとの連携を深め、本校の支援体制を充実させる。具体的には、マラソン大会での炊き出しや、PTA新聞「くすのき」の発行等を行う。				
生徒指導	生徒募集部やキャリア育成部等との連携を図り、進路実現を根底に置いた指導を徹底する。立止り一礼挨拶を深化させる。（相手を思いやった挨拶、心のこもった挨拶を目指す。）校内外における身なり指導とコミュニケーション能力の向上を目指した指導を全職員で行う。主体的に交通マナーの向上を図り、自他の生命の尊重ができる態度の育成を図る。	職員への進路実現を根底に置いた生徒指導意識の共有をキャリア育成部などとの連携を密にし、進路実績を中学生へのアピールポイントとして活用できるようにする。				
		コミュニケーション能力の向上を目指し、相手に応じて敬語を正しく使う指導を徹底する。樟あっぷ運動を効果的に活用し、全職員での生徒指導を展開する。				
		挨拶の意義を様々な学校生活の場面で理解させ、職員の率先垂範を行うことで生徒の自発的な挨拶をさらに充実させていく。				
		交通安全教室などを学期に1度以上実施し、生徒会活動などから生徒たちの主体的な呼びかけを行わせるよう指導していく。				
	生徒主体型の学校行事を充実させ、樟風の特色や生徒の良さを地域に明確にアピールできるものを全生徒・職員の協力のもと創り出す。	学校行事や部活動などの活動を、生徒会などを中心とした生徒主導で実施させる機会を増やし、Upias樟を積極的に活用して自己肯定感を高めていく。				
		生徒と職員、保護者での校則の見直しを継続的に図っていく。HPやインスタグラムを活用し、学校のよいPRの場面となるよう更なる充実を図る。				
		地域との連携を積極的に図っていき、学校行事や地域のイベントなどを協働して行うような機会を増やす。				
	生徒主導による各部活動の推進や生徒会を中核とした各種委員会などを活性化し、主体的で活気ある活動を展開し、生徒募集部との連携を図り広報活動を積極的に実施する。	毎月の活動計画を作成することにより、毎日の部活動を生徒が自主的・自発的に取り組むことができるように指導していく。				
		中高連携を活用し、学期に1回中学校などとの部活動の合同練習などを行っていく。				
		生徒会・各種委員会・部活動の活性化を図るための検討委員会を作り、生徒募集部と連携を図り生徒目線からの校外へのアピール活動を検討し実施していく。				

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見

保健指導	学校全体の活動を通じて美化活動に積極的に取り組み、生徒の環境美化に対する意識の向上を図る。	美化意識の低下が、感染症拡大にもつながる恐れがあることを理解させ、校内外の美化活動の徹底を図る。					
	心身ともにバランスの取れた生徒を育成するために、心と身体の健康に留意した生活習慣とその方法について指導し、健康管理能力の向上を図る。	生徒の心と身体の健康教育の充実を図ることによって、健康管理に留意させ、指導へとつなげる。また、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、手洗い、うがいの徹底を図る。さらに、夏季においては、熱中症予防に努め、啓発を行う。					
	教育相談活動の充実、様々な問題の未然防止と早期発見に努め、支援、解決を図る。	生徒が抱える様々な健康問題について、各学年、担任と連携し、その未然防止と早期発見に努め、最適な支援を行い、解決を図る。					
キャリア教育	3年間を通した体系的なキャリア教育を推進することにより、生徒が適切な自己理解に基づいて主体的に将来を設計し、自己実現を目指す能力を育成する。	スタディサプリを活用した個別学習により、基礎学力の定着と希望進路を実現できる能力を育成する。					
		「未来への一日」やインターンシップ等の行事により、生徒の進路意識の高揚を図る。					
		ホームルーム等におけるキャリアパスポートの活用方法を検討する。					
	有益な進路情報の収集と発信を行い、生徒が進路目標を早期に確立し、積極的にその実現を目指す姿勢を身につけさせる。	『進路の手引き』を5月に発行することにより、有益な情報を発信し、学年や希望進路に応じた活用を推進する。					
		次年度入試とともに、新課程入試に関する情報も適宜発信する。					
	進学・就職ともに100%の実現を目標に、指導内容や手だての共有化を継続的に行うことで、B43:E46学年や学科・学系と連携したキャリア教育を展開する。	外部模試等の結果の分析会を実施することにより学年や学科・学系、教科担当との共通理解を図る。					
		多様な生徒に対応するため、学年や学科・学系と連携し、個人面談等による丁寧な指導を行う。					
キャリア研修	職員研修を計画的に実施するとともに、内容の充実を図る。専門研修等を案内し、多くの研修機会を活用できるようにする	教職員の資質向上のため、年間に5回程度、本校の実態に即した職員研修を計画的に実施するとともに、専門研修等の研修機会を随時提供する。					
	ICTを活用した授業やアクティブラーニングを推進するための研修会や研究授業を実施する。	各教科がICTやアクティブラーニングについて活用を図り、「授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道！」へとつながるように授業改善を推進する。また、chromebookやスタディサプリの活用を積極的に推進する。					
	授業アンケートや授業参観等で授業評価を行い、各教科の課題解決につなげていく。	研究授業や授業参観をとおして、「授業改善や観点別評価について各教科で研修や検討を行い、評価の充実を図る。また授業アンケートを実施し、授業改善を推進する。					
	実習生の人間形成と教師の資質向上を目指した教育実習を実施する。また指導をとおして担当者の指導力向上につなげる。	教育実習を計画的にすすめ、実習生の人間形成と教師としての資質向上につながるように担当教員や学年でで協力しながら指導する。また、教科指導をとおして、担当者自身の指導力向上を図る。					
生徒募集	本校生徒の活躍や学校生活の様子の効果的な情報発信（HPやInstagramの積極的活用）	HPやInstagramを活用して、本校生徒の進路実績や資格取得状況、学校生活の様子、学校行事などを情報発信する。HPは毎月、Instagramは月に2～3回更新する。年3回の「樟風新聞」の他にも情報紙を発行する。					
	中学生に対する本校の特長・魅力の説明と有為な情報の提供	中学校における高校説明会や進路学習会では、本校の特長や魅力の説明の他、中学生にとって有為な情報（中学生としてやっておくべきこと、高校入試情報、高校生活とはなど）も提供していく。					
	在校生からの情報や生徒の諸活動を活用した生徒募集	在校生から本校の雰囲気や様子、高校生活満足度などの情報を収集し、第1回中学校訪問に活用する。在校生自身がInstagramを月1回程度投稿し、PRする。R6年2～3月に中学2年生を対象に、本校3年生の中学校訪問を行う。					
教育の情報化推進	ICT利活用の推進を図り、学力の向上を目指す。	ICTを活用した実践例について、校内・校外の情報を収集・発信することで、全職員に活用技術の幅を持たせる。					
	職員の活用スキルの向上を図るため、ICT利活用に関する研修や支援を行う。	ICT機器や情報を活用できる職員を増やすため、学期に一度の研修を行ったり、その時々にあった、適切な情報を学校ポータルや情報ロッカーへの掲示を行い発信する。					
	ICT利活用のための環境を整える。	Chromebookをはじめ、各教室の電子黒板やコンピュータ室の適切な使用方法について広く周知し、不具合や破損が起こった際には円滑な情報共有につとめることで早期に復帰させ、使用可能な環境を維持できるようにする。					
1学年	教員・生徒間の人間関係の構築および主体性の確立	身だしなみや挨拶の励行、時間の管理を、3年後の社会人としてのあるべき姿の完成形の基礎作りとして生徒自身が主体的に意識するよう指導する。					
		教務課及びキャリア教育課と連携し、遅刻・欠席をしない意識と態度を育てる。					
		清掃活動を徹底することで、学ぶ環境、共有する環境をつくり、他者を思いやる気持ちを涵養する。					
		養護教諭、SSW、SC及び保護者との連携を密にし、生徒一人ひとりの情報を共有し、課題の解決を図る。					
	進路を意識した授業規律の確立	教科担当者と担任が情報交換を密にし、粘り強く指導しながら課題の提出を徹底する。					
		友達・クラス・学年間で情報を共有しながら、協働し授業に臨む姿勢を養う。					
		学習環境を整える。終礼後は机の上に物を置かない。					
	基礎学力の充実及び思考・判断・表現できる生徒の育成	教科担当者と担任が情報交換を密にし、粘り強く指導しながら課題の提出を徹底する。					
		友達・クラス・学年間で情報を共有しながら、協働し授業に臨む姿勢を養う。					
		学習環境を整える。終礼後は机の上に物を置かない。					
	基礎学力の充実及び思考・判断・表現できる生徒の育成	様々な物事を主体的に思考する姿勢を身に付けさせ、物事を論理的に表現する機会を設ける。					
		成績不振者に対する補講等を計画的に実施する。					
		人ひとりが持っている個性や能力、適性に合わせて学習方法を支援するため、授業で困っている生徒を学年が把握し、授業担当者と協力しながら、生徒全員がわかる授業を展開する。					

2学年	主体性の確立と個々にあった学力の定着	出席を常に意識し、出席率95%以上を維持するように心掛け、安易な遅刻、欠席をしない意識と態度を育てるとともに、手帳を活用し、記録することで、実行に移す自己管理能力を育てる。						
		平素の授業を規律と活気あるものとし、学力の向上に努め、成績不振者に対する個別指導や補講等を計画的に実施する。各学期に考査に向けての目標設定をさせる。						
		スタディサプリを活用した個別学習により、基礎学力の定着と希望進路を実現できる能力を育成する。						
	規範意識と協調性の確立	頭髪服装規定等の校則が持つ意義を理解させ、身を律する態度に繋げさせる。校則の見直し等についても生徒から呼びかけを行うように指導する。						
		授業や学校行事で協働活動を取り入れる中で、協調性を涵養する。						
		学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活に達成感や充実感を感じることができるようにする。						
		挨拶の励行を通じて、他者との関わりやマナー意識を向上させ、より豊かな学校生活に繋げていく。						
	ボランティア活動の積極的参加を促し、愛校心を育む。B70:E79	資格取得を1つでも多く実現できるよう積極的受験を促す。希望制になっている資格取得においては特に呼びかけをしっかり行う。						
		模試を積極的受験を勧め、全国的に見た自分の学力を確認し、進路実現に活かす。						
		ボランティア活動の積極的参加を促し、愛校心を育む。						
3学年	進路実現のための学力の育成	平素の授業や学習支援サプリを利用し、多岐に渡る生徒の進路に合わせた内容を学び、進路実現ができる力を身につけさせる。						
		各学科における資格取得を各科で奨励し、より高次の取得に向けて授業や補講などで対策を取り、その資格取得を目指す。						
		外部の模擬試験を指針として、志望する大学入学試験の合格ラインを越えられる学力を身につけさせる。また、入試傾向を捉え、小論文やポートフォリオの指導の充実を図る。						
		個人面談を適宜行い、生徒の希望と能力を常に把握し、担任会や学年会などを利用するとともに、各教科担当にも協力を仰ぎ、情報交換を密にすることで、より個々に対応した指導助言を行う。						
	生涯を自立して生きるための自己教育力の育成	出席率95%を維持し、計画的に学習や行事に取り組めるように促し、自己調整能力を確立させる。						
		社会人としての在り方を常に意識して、主体的に身だしなみや挨拶等を励行する。						
		授業や知識を広げるため、日常的にICTを活用するとともに、情報処理能力を養う。						
	実社会で求められる主体性と協調性の育成	学校行事を中心となって企画・運営し、その都度の目標設定とその実現に向けて全生徒が真摯な態度で取り組み、成熟感を味わい協調性を身につけさせる。						
		地域の行事やボランティア活動などへ参加し、実社会と関りを持つことで協調性を育成する。						
		授業やHR、総合的な探究の時間などで自分の考えをまとめ、積極的に表現する能力を高め、他者の意見に傾聴しようとする態度を育てる。						
普通科	生徒の適性に応じた学系の選択	学系選択にあたっては、早期に説明会を開催し、生徒・保護者が希望進路や適性に応じて選択できる期間を保障する。						
	学習習慣の確立と基礎学力の定	学年・教科との連携を密にし、生徒の実態を正確に把握し、効果的な取り組みを行う。また、校外模試等を有効に活用し、学習意欲と学力の向上に繋げる。						
	早期の進路意識の高揚	個人面談による進路相談や面接指導、作文（小論文）指導等を計画的に実施する。また、総合的な探究の時間やHR活動等を通して、職業観の育成を図る。						
	資格取得の奨励	各教科と連携し、学習意欲と学力の向上に繋げるための資格取得を奨励する。 また、授業や課外、放課後の学習会等を活用して、検定合格率を上げる。						
住環境システム科	専門教科（実習等）を通した「ものづくり実習」の充実	ものづくりへの興味・関心を喚起し、より実践的な実習を行い、ものづくりを通しての人づくりを目指していく。						
	産学官連携事業の更なる推進と専門性への目的意識を高め、将来の進路選択の一つとする。	産学官連携産業人材育成事業を通して、各専門教科への興味・関心や進路意識を深め、より高い専門意識を持たせる。						
	積極的な資格試験の受験と実用的な資格試験の導入を行う。	専門性への目的意識を持たせ、実社会に通用する資格を導入し、より多くの合格者を目指す。						

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見